

4/28
朝日

搬送先決まりない迫る死

新型コロナウイルスの感染拡大をめぐり、大阪市や神戸市で患者の搬送先がすぐには決まらない救急搬送の困難事例が相次いでいる。病床の逼迫が原因で、コロナ患者の搬送に丸2日近くかかるケースも出ている。病院にも行けないまま死に至る恐れが、目の前にある。

119番から11日半「重症化」

「自宅で」となる人が出る現実を実感した。母親の搬送先が一時見つかなかった大阪市の40代女性は訴える。

神戸市に住む70代の母親がPCR検査で陽性になつたのは今月中旬。せきや微熱の症状が出ていた。高齢で基礎疾患もあるため入院が決まつたが、病床がなかなか見つからなかつた。93%未満の酸素飽和度を測ると80%は中等症や重症とされる数

字だ。父が保健所に連絡したが、「入院待ちの患者は他にもいる」と応じてもらえた。同時に119番通報もしたが、「入院先是保健所が決めている」と言われ、救急車も来なかつた。という。

最初の119番通報から1日半が経つ朝、「大勢が入院を待っているから仕方ない」と言つて、自宅療養が決まつたが、その日の夜、市から借りた機器で、母の血中の酸素飽和度を測ると80%合しなかつた。93%未満の酸素飽和度を測ると80%は中等症や重症とされる数

た。「本当は重症病床に入つた方が良い病状」と言われた。母は人工呼吸器を装着され、今もこの病院で闘

病する。

女性は「家族がどれだけお願いしても、病院に搬送してもらえないかった。どの患者から入院させるかとい

病床足らず 救急車撤収

「今すぐ入院させるべき患者を搬送できていない」。救急搬送の困難事例に自治体も悩む。

神戸市では、基礎疾患があり、血中の酸素飽和度も下がっているなどの「緊急的に入院が必要なコロナ患者」が1日に45人ほど発生

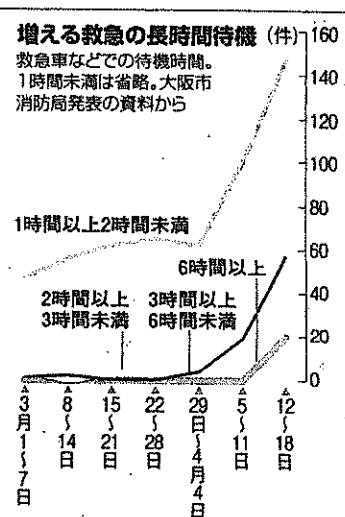
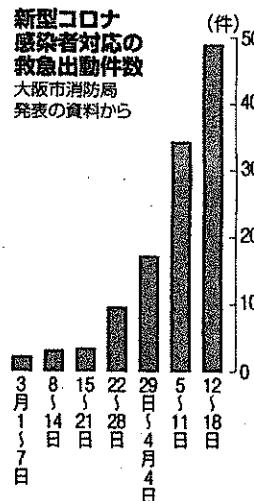
している。だが、病床が足りないため、このうち30人ほどの搬送が翌日以降にならざるを得ない」とし、宅から搬送する「不搬送」

始めた。市の担当者は「自宅で酸素投与を受けた患者からは棄になったと言われるが、本来は入院すべき患者。根本解決には感染者を減らすしかない」と話す。

大阪府内でも、3月以降に患者9人が自宅療養中に亡った。第3波と比べても搬

車が着いてから搬送まで46時間53分かかった事案もあつた。第3波と比べても搬

新型コロナ
感染者対応の
救急出動件数
大阪市消防局
発表の資料から



搬送先の病院が見つかるまでの時間が長期化しており、市消防局の担当者は「コロナ病床の逼迫を実感している」と言う。

大阪市では、コロナ陽性の患者以外で、医療機関へ4回以上来院し、現場からも影響が出ている。

大阪市では、コロナ陽性

の患者以外で、医療機関へ

4回以上来院し、現場から

も影響が出ている。

大阪市では、コロナ陽性

の患者以外で、医療機関へ

4回以上来院し、現場からも影響が出ている。